

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第155回

神戸大学の活動報告



栗山尚子 (神戸大学大学院 工学研究科准教授)

天津大から院生招聘、港湾都市建築とデザインの研究・教育プログラム

天津大学建築学院から大学院生10名を招へいし、神戸大学工学研究科建築学専攻と天津大学建築学院の共同によって、港湾都市における建築と都市デザインに関する国際的な研究・教育プログラムの開発を目的とした国際交流事業を、2018年6月9日から17日の9日間にわたり実施した。本事業は都市デザインに関するワークショップと両大学の交流建築設計展の2つのプログラムで構成されている。2016年度は本事業を神戸で実施し、2017年度は神戸大学が天津大学建築学院を訪問し、同事業を実施した。今年度で3回目の事業となる。

(1) 課題発見型の都市デザインワークショップの開催

2日目から6日目まで、「神戸港開港180年の都心ウォーターフロントをデザインせよ」という設計課題を課し、ワークショップ



都市デザインワークショップ



ワークショップでの指導風景

を神戸大学工学部内で実施した。神戸大学教員(中江研准教授、栗山)と、天津大学の鄭穎副教授、胡一可副教授の指導のもとで、両大学の学生の混成の4つのグループが提案を行った。

2日目の午前中に、神戸大学にて、神戸市都心ウォーターフロントの現状と課題に関する説明を行い、昼にはウエルカムパーティーを行った。午後には課題の対象敷地である神戸・都心ウォーターフロントの現地視察を実施した。3日目からグループワークを開始し、4日目の午前には中間講評会を開催、各グループの提案の方針について質疑応答を行った。広い敷地を対象とし、かつ、今から約30年後のウォーターフロントの都市像を提案するという難易度の高い課題であったため、学生は毎日長時間にわたる議論と作業を行い、かなり体力を消耗したようである。提案パネルは7日目から設計展で展示され、8日目の設計展の講評会の場で、ワークショップでの提案の発表を行った。

(2) 交流建築設計展の開催

6日目から9日目の4日間に、KITO(デザインクリエイティブセンター神戸)にて神戸大学・天津大学交流建築設計展を開催し、両大学の設計演習や卒業設計の優秀作品

| プログラム | |
|-------|--|
| 1日目 | 天津大学ご一行、到着 |
| 2日目 | オリエンテーション 建築と都市デザインに関するワークショップ開始 課題説明 歓迎昼食会 現地調査 |
| 3日目 | グループワーク |
| 4日目 | 中間講評会 |
| 5日目 | グループワーク |
| 6日目 | 成果品提出 合同設計展1日目 |
| 7日目 | 講評会準備 合同設計展2日目 |
| 8日目 | ゲストを迎えての最終講評会 合同設計展3日目 |
| 9日目 | 合同設計展4日目 天津大学ご一行帰国 |



設計展での提案パネルの展示



神戸都心ウォーターフロントの視察



修了式後の集合写真



設計展展示作品の講評会

本事業をご支援いただいたことからサイエンスプラン、本交流プログラム、本交流プログラムの構築や種々の手続き・調整に尽力いただいた天津大学建築学院の皆様、本事業にご協力いただいた全ての方々に、心より御礼申し上げます。

本事業を、本ワークショップに参加した学生に向けても積極的に進めていきたいと考えています。また、国際共同研究への展開にもつなげていきたいと考えています。

(4) 今後の展望

建築や都市デザインは、図やダイアグラムを使って意思疎通ができる。このことを学生には経験してほしいと思っている。英語で専門分野の話を一緒に提案することは、難易度が高いという学生の思い込みを、今後も払拭していきたい。そして、国際交流の機会や国際共同研究に取り組みたいという意欲が学生に芽生えるよう、これまでの活動に関する情報提供を、本ワークショップに参加した学生に向けても積極的に進めていきたいと考えています。また、国際共同研究への展開にもつなげていきたいと考えています。

本事業を、本ワークショップに参加した学生に向けても積極的に進めていきたいと考えています。また、国際共同研究への展開にもつなげていきたいと考えています。

と本ワークショップの成果品の展示を行い、神戸大学の外で成果を発信した。

8日目に、天津大学教員(張順院長)、神戸大学教員(遠藤秀平教授、槻橋修准教授)、馬場正尊氏(東北芸術工科大学教授、OpenA代表取締役)、阿部大輔氏(龍谷大学教授)を講師者として迎え、展示作品についての講評会を開催した。講評会後は、さくらサイエンスプラン修了式とフェアウェルパーティーを行い、9日目に設計展を終え、天津大学建築学院一行が帰国の途についた。

(3) プログラムの成果

学生たちは、提案を計画する際の両国の考え方の違いに戸惑いながらも、専門分野での交流を通じて、短期間でありながらも濃密な交流ができたことが伺えた。

神戸大学工学部建築学科と天津大学建築学院は、1980年に学術交流協定が締結されるこの交流は日中の大学交流で最も歴史のある

ものだとされている。2014年に本交流協定が改定され、神戸大学教員と学生、天津大学教員と学生の行き来が、訪問レベルで徐々に活発になった。本ワークショップは、2016年から数えて3回目の開催となるが、その間に天津大学建築学院からの留学生の受け入れが増え、9名もの留学生(8名の学部生と1名の大学院生)を本学では受け入れており、本プログラムを起因とした大きな成果だと考えられる。天津大学では神戸大学への半年間の留学への意欲がかなり高まっているようである。神戸大学から天津大学への留学生は、残念ながらまだ出てきていないが、留学を考えてみようという意欲をもつ学生が徐々に増えてきたという感触を得ている。長期の留学に最初から挑戦するのは勇気がいるが、短期間でのワークショップの経験によって、留学が難しいものだという抵抗感の減少に寄与していることも、本プログラムの成果だと感じている。